

応募No.7

『なるほどコンテスト』応募用紙

タイトル	既存住宅における建物壁面(室内)傾斜計測方法について		
会社名		担当者名	
業務	地盤調査 ・ 地盤補強工事 ・ 測量 ・ 建物検査		
分野	作業効率改善 ・ 安全活動		

活動に至った経緯

建物壁面(室内)傾斜計測方法について、住宅補償に係る調査において一般的な手法を紹介する。

(バーチカル傾斜計)

公共工事前後における家屋調査は、入札案件になることが一般的であり、工事前と工事後に調査する会社異なる場合がある。それ故、正確な計測が求められる。

バーチカル傾斜計の原理はシンプルであり、再現性の確かなものとして活用されている。

改善後(工夫した点・苦労した点など)

震災、地盤沈下、事業損失・工損調査、家屋調査などによる柱、床、外壁、工作物(外構)などの傾斜測定に用いられる一般的な傾斜計です

PRポイント(アピールしたい点や社内の効果など)

震災、地盤沈下、事業損失・工損調査、家屋調査などによる柱、床、外壁、工作物(外構)などの傾斜測定に用いられる最適な傾斜計です。既存住宅状況調査においては、取り入れられていない手法である。


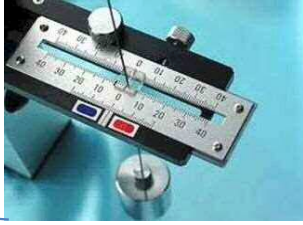
床上等に機器を設置するレーザー計測と比べ、調査者自身による床の沈み等を考慮する必要が少ない。

同一位置で器具を180度回転させて計測することで、器具の不具合の確認を行うことが可能である。また、器具による測定誤差は、 $\pm 0.2\text{mm}/1,000\text{mm}$ としている。

瑕疵保険協会に確認したところ、不具合の有無を確認する最初の確認作業では問題なく利用可能である。

ただし、不具合(6/1000以上)が確認された場合は、垂直方向(約2m)の範囲で下げ振り、レーザーなどでの計測が必要である。

写真

 <p>バーチカル傾斜計</p>	 <p>実地での確認状況</p>
	 <p>一目瞭然での値確認 ※レーザー計測と一致</p>

コスト(活動に取組んだ経費など)

【販売価格】1本:¥45,360(税込)

バーチカル測傾器 VC2 (1.15m) 長さ:1.15M、重さ:約1.8kg